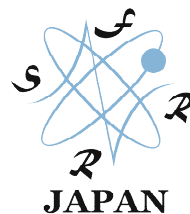


SFRR Japan NEWSLETTER

June 11, 2009



Top News!

◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇

第62回日本酸化ストレス学会学術集会

開催のご挨拶



この度、福岡で第62回日本酸化ストレス学会学術集会を開催することとなり、担当会長として大変光栄に存じます。本学会が「日本酸化ストレス学会」と名称変更されて、第2回目の学術集会であります。本会を開催するにあたり、会員の皆様、ご協賛企業の皆様のご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。

生体内でのレドックス制御の破綻をはじめとした酸化ストレス障害は、生活習慣病など種々の疾患成因・増悪因子と考えられており、基礎・臨床や創薬の多岐にわたる分野で広く研究されています。それぞれの研究領域は高度で細分化し、異領域間での交流が必ずしも活発でなく、新たな切り口が求められています。酸化ストレス疾患の克服は国民の健康に重要な課題です。酸化ストレス疾患に関係する研究者が、基礎から臨床まで一堂に会して最先端の研究成果を交換し協働研究を推進することは、先端融合医療を展開するうえで極めて重要です。また、若手研究者が最先端の成果を持ち寄り異分野交流を積極的に進めることは若手人材育成の面からも積極的な推進が求められています。九州大学では、2007年7月より文部科学省科学技術振興調整費と民間企業との協働を得て「先端融合医療レドックスナビ研究拠点」を新しく設け、基礎から臨床に至る先端融合医療研究と若手人材育成を進めています。

本学術集会では、「疾患を見据えた基礎研究」、「基礎研究を踏まえた臨床研究」をテーマに、医学・歯学・薬学・農学・工学・理学など多分野の研究者が自由闊達に討論できる会を目指し準備して参りました。そのために、科学研究費・新学術領域研究「活性酸素のシグナル伝達機能」（領域代表：赤池孝章 熊大教授）と上記研究拠点の協力も得て、酸化ストレスに関わるシグナル伝達から、抗酸化物質、生体計測、臨床研究まで、4つのシンポジウムと2つのランチョンセミナー、一般講演を企画致しました。さらに、特別講演として、九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点グループ長（農学研究院教授）の割石博之先生から、「高感度質量分析を基盤とした新たなメタボロミクス技術への展開」について御講演を頂く予定です。また、学会賞、学術賞の受賞講演と、学術奨励賞の応募発表が行われます。本学術集会において、酸化ストレス疾患の克服に向けて基礎研究から臨床研究まで多方面からの積極的な討論が行われますことを心から期待しております。開催地の福岡は、新鮮な魚と酒が楽しめる町として全国に知られており、皆様が学術以外でも十分にお楽しみいただき、一層の親交が深まることを心より願っております。本学術集会にご参加の皆様へ改めて感謝申し上げます。

会長 内海 英雄
(九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点 拠点長
九州大学大学院薬学研究院機能分子解析学 教授)



日時: 2009年6月11日(木)、12日(金)
会場: 九州大学医学部百年講堂(福岡市馬出)
会長: 内海英雄(九州大学 教授)
副会長: 高柳涼一(九州大学 教授)

第62回日本酸化ストレス学会学術集会のご案内を申し上げます。本学術集会では、がんや生活習慣病など近年急増している酸化ストレス疾患の克服や国民の健康増進に向けて、「疾患を見据えた基礎研究」、「基礎研究を踏まえた臨床研究」をテーマに、医学・歯学・薬学・農学・工学・理学など異分野の研究者が自由闊達に討論できる会を目指しております。

本会では、特別講演として九州大学大学院農学研究院の割石博之先生に「レドックスナビにおけるメタボロミクスソリューション-MALDI法を基盤とした新たなメタボロミクス技術への展開」と題し、酸化ストレス疾患などのレドックス制御に関わる物質の質量分析について御講演頂く予定です。学会賞受賞講演として、東京大学大学院薬学研究院の長野哲雄先生に「バイオイメージングプローブの開発とその生体系への応用に関する研究」を、学術賞受賞講演として北里大学薬学部の今井浩孝先生に「3つのタイプのリン脂質ヒドロペルオキシドグルタチオンペルオキシダーゼ(PHGPx)の個体レベルでの機能解析」を御講演頂きます。また今回は以下4つのシンポジウムを企画いたしました。文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究(研究領域提案型)から「活性酸素と親電子シグナル～活性酸素の光と陰の本態解明に向けた～」(オーガナイザー: 赤池孝章先生、内田浩二先生)と題し活性酸素のシグナル伝達に関わる研究について、また、文部科学省科学技術振興調整費 先端融合領域イノベーション創出拠点の形成から「レドックスナビゲーション～生体レドックスを指標とする新しい医療概念の創製～」(オーガナイザー: 井口登典志先生、片山佳樹先生)として、医療に関わる生体レドックス変動に関する研究を、また「セレン含有タンパク質の機能の多様性と酸化ストレス」(オーガナイザー: 高橋和彦先生、今井浩孝先生)として生体内必須元素であるセレンと疾患の関わりについて、さらに、「*in vivo*酸化ストレスイメージングの最前線」(オーガナイザー: 安西和紀先生、竹下啓蔵先生)と題し、生体レドックス変動の画像化についてシンポジウムを予定しております。さらに例年どおり奨励賞候補者講演(7演題)を、また一般講演として40演題、ポスター発表として74演題を予定しています。このポスター発表には、昨年度より始まりましたポスター賞も設けました。また、共催により2つのランチョンセミナーも行われます。

本学会では、基礎研究から臨床研究まで、さらに分子レベルから個体レベルまで、酸化ストレス疾患の解明に関わる様々な演題が多数ございます。

本学会を通じ今後益々増加する酸化ストレス疾患の克服に向けて多方面からの積極的な御討論頂けましたら幸甚に存じます。

(第62回日本酸化ストレス学会学術集会
事務局 山田健一、安川圭司)

◇◇◇ 委員会便り ◇◇◇

*** 学会賞・学術賞・功労賞 選考委員会 ***

平成20年度から2つの学会、日本フリーラジカル学会と過酸化脂質フリーラジカル学会、の統合にともない新たに日本酸化ストレス学会が発足致しました。それにともない学会賞・学術賞に応募される方々の分野も多岐にわたり、選考する側に広くかつ深い知識が要求され、結論を出すのに頭を悩ましております。

酸化ストレスは生命現象の基本に係わっております。それゆえ、その研究分野は広く、本学会はそれだけ様々な研究者が一堂に会する学会と言えます。つまり、酸化ストレスという言葉がキーワードにとれば、一人一人が第一人者となる訳です。我こそはと思われる方は是非積極的に学会賞・学術賞に応募して頂きたいと思えます。自薦、他薦は問いません。

委員会での結論は理事会に報告され、審議されることになっております。ただ、選考の難しさを考えますと、選考結果を理事会に報告する前に一度委員全員が集まり、意見を交換する場を設けて頂ければと思うのが、過去2年間に渡り選考委員を務めた者の率直な気持ちです

(学会賞・学術賞・功労賞選考委員会 委員長 桑原幹典)

【学会賞・学術賞の公募について】

学会賞: その業績が日本の酸化ストレス研究を代表しかつ世界に通用するものであり、本会の運営あるいは発展に特に顕著な功績のあった研究者に対し授与する。本学会会員であり、会員歴10年以上のもの。

学術賞: 過去の研究歴ならびに業績より総合的に判断し、本学会ならびに世界において今後の顕著な活躍が期待されるもの。本学会会員であり、会員歴5年以上、50才以下のもの。(当該年度4月1日現在)。学術集会における筆頭発表者(口頭およびポスターによる発表)の経験を有するもの。

いずれも、毎年候補者の募集を学会ホームページに公告いたしますので、ご参照下さい。自薦・他薦を問いませんので、是非多くのご応募をお待ちいたしております。

*** 広報委員会 ***

2008年度から現在までの活動報告を申し上げます。

1) News letterの発行

理事や評議員の皆様にご協力頂きまして、News letterの発行を2009年1月にをこなうことが出来ました。また少しでも会員の皆様のお役に立てますように各種関連学会情報や、若手研究者育成を目的とするAwardの情報を掲載いたしました。この6月のNews letterとあわせまして、今後も1年に2回の定期発行を予定しております。

2) 日本酸化ストレス学会の新しいホームページの作成、ならびにSFRR-Asiaの新しいホームページの作成をおこないました。ご利用ください。

3) 関連学会へのパンフレット/入会案内配布

これまで精力的に各関連学会にパンフレットや入会案内を配布して参りましたが、昨年度は関連/非関連学会を問わず広い分野で、広報活動を行いました。

現会員の皆様にもご協力頂きましたお陰をもちまして、新規入会会員数は2008年1月から2009年5月20日現在で147名、総会員数788名と増加の一途をたっており、本学会に対する潜在的興味の高さを改めて実感しております。

これからの次世代を担って行くべき新規の若手学会員に積極的にご入会頂く目的で、また、更に本学会の知名度を上げる目的で新たな広報活動をおこなう所存であります。

学会員の皆様のご協力、ご指導を何卒宜しくお願い申し上げます。

(広報委員会 委員長 内藤裕二、委員 半田 修)

◇◇◇ 奨励賞公募について ◇◇◇

日本酸化ストレス学会では、年次学術集会はもちろん、関連学会における若手研究者の今後の益々の活躍を期待し、奨励賞を設けております。

・年次術集会「学術奨励賞」 毎年3件以内。

* 酸化ストレス研究の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に対し授与するものである。

* 当該年の4月1日において40歳以下で会員歴3年を有するものとする。ただし、女性にあっては前項の年齢制限を45歳以下とする。

* 毎年開催される日本酸化ストレス学会学術集会における学術講演発表者を対象として、選考委員会で決定する。

年次学術集会演題募集の際に公募。

抄録ならびに略歴および業績リストによる第1次選考を経て、学術集会当日の奨励賞候補セッションにおいて口頭発表を行っていただきます。

演題公募の際にご案内をご覧ください。

・関連国際学会における Young Investigator Award

* 隔年で開催される

SFRR International Meeting

SFRR Asia Meeting

SFRR A+J Meeting (AustralasiaとのJoint Meeting)

開催の際にポスター発表を行う日本酸化ストレス学会学術集会の中から優秀な発表に対して授与するものである。

* 特に応募は不要とし、発表演題の中より選出される。

* 総数は該当演題数ならびに内容により、3件~5件程度。

例) 過去の実績: 14th SFRR International 4件 副賞 2万円

いずれも、賞状ならびに副賞が授与されます。是非多くのご応募をお待ちしております。

その他、上部組織であります SFRR Asia においても、若手研究者向けアワードが予定されております。(詳細は最終頁をご参照下さい。)

News: ホームページ リニューアル

2009年2月にホームページをリニューアルしました。

より分かりやすく情報を掲載していく予定ですので、是非ご利用下さい。また、会員をはじめ、本会に関心のある皆様に広く情報を発信していく為、有意義な情報がございましたら、広く募ります。事務局宛ご連絡下さい。

合わせて、SFRR AsiaのHPも一新いたしましたので、ご参照下さい。



← 日本酸化ストレス学会 (SFRR Japan)



SFRR Asia →

◇◇◇ 関連学会 開催案内◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

第63回日本酸化ストレス学会学術集会

1. 日 時: 2010(平成22)年6月24日(木)~25日(金)
2. 会 場: 神奈川県民ホール
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
(<http://www.kanagawa-kenminhall.com>)
懇親会: ローズホテル横浜
〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町77
3. 会 長: 小澤俊彦(横浜薬科大学 教授)

来年横浜で開催されます日本酸化ストレス学会学術集会ですが、現在その準備をおこなっており、具体的な日時と場所が決まりましたのでお知らせいたします。

会場はみなとみらい線日本大通り駅より徒歩5分ほどと非常に交通の便のよいところです。また、中華街に近く、山下公園、今注目のスポットである赤レンガ倉庫など、古き横浜と新しい横浜を楽しめるロケーションだともいえます。会員の皆様の積極的な参加をお願い致します。

連絡先: 横浜薬科大学
小澤俊彦
(ozawa@rugbygoods.com)
(t.ozawa@hamayaku.ac.jp)
事務局: 神奈川歯科大学薬理学教室
李 昌一 (ieeman@kdcnet.ac.jp)

(第63回学術集会会長 小澤俊彦)

4th Biennial SFRR Asia Meeting



Date: July 9(Thu.) to 12(Sun.), 2009
Venue: MERITUS Pelangi Beach Resort & SPA,
Langkawi, Malaysia
President: Dr. Kalanithi Nesaretnam
Secretary-general: Dr. Yasmin Anum Mohd Yusof
Contact: sarnesar@mpob.gov.my

詳細は、下記HPをご参照下さい。
<http://www.costam.org.my/events/SFRR.shtml>

Participant	Foreign Participants
Before/on 31st May 2009	400 USD/Euro
From 1st June 2009	450 USD/Euro
On Site	500 USD/Euro

日本酸化ストレス学会の上部組織であるSFRR Asiaでは、隔年加盟 society 持ち回りで学会を開催しております第1回:韓国、第2回:中国、第3回:インドに引き続き、今年は、2008年より加盟したSFRR Malaysia主催にて、マレーシア、ランカウイ島で、開催されることとなっております。若手研究者の奨励賞(今年度は受付終了済)も授与されます。なお、次々期、第5回(2011年)は日本開催となっております。また詳細が決まり次第、追ってご案内いたします。

Free Radical School in Japan2009

Date: September 2 (Wed.) to 6 (Sun.), 2009
Venue: Hotel Green Plaza Joetsu,
上越国際スキーリゾート
Uonuma, Niigata, Japan
<http://www.hgp.co.jp/inf/Z00/hgp/>

President: President: ToshiKazu Yoshikawa,
Vice President: Hideyuki Majima
Secretary-general: Yuji Naito, Hirofumi Matsui
公用言語: 英語
BLOG: <http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/gastroenterology/freeradical/index.html>
Registration fee: JPY 15,000
*accommodation fee JPY35,000

Please download the registration form from web-site and fill out and send it to the secretariat via e-mail, secretariat@keiso-comm.com from April 20 to July 31, 2009.

来る9月2日から9月6日まで新潟県南魚沼市樺沢にある上越国際スキーリゾートを会場に、日本酸化ストレス学会初の国際スクール企画としてFree Radical School in Japan2009が開催される予定です。プログラムはNO、ミトコンドリア、EPR、Redox、HNE、ROS in Medicineの6主題を中心に、各主題のコーディネーターが内外の第一人者を招聘し、最新のフリーラジカルに関する知見に関して講義を行うというものです。海外から多くの参加者も予定されており、知識を深めると同時に、同じジャンルの先達や同期、後輩が一堂に会するこの機会を利用して交流をもち、研究の幅を広げる場として利用してください。

(事務局: 松井裕史・筑波大学)

5th joint Meeting of SFRR(A+J)

Date: December 1 (Tues.) - 4 (Fri.), 2009
Venue: Veterinary Science Conference
Centre, University of Sydney, Australia
For further information please contact:
Prof. Roland Stocker Medical Foundation Building
University of Sydney NSW 2006 Australia
Phone: +61 (2) 9036 3207 Fax: +61 (2) 9036 3286
Email: rstocker@med.usyd.edu.au
(<http://www.pathology.usyd.edu.au/sfra2009.htm>)



The Societies for Free Radical Research Australasia and Japan are delighted to announce their 5th bi-annual meeting, to be held at University of Sydney, Tuesday December 1 - Friday December 4, 2009. The Mutagenesis and Experimental Pathology Society of Australasia will also join the meeting, their 11th annual meeting. In addition, the meeting will include educational sessions and joint symposia with the Australian Society of Clinical and Experimental Pharmacologists and Toxicologists (ASCEPT), and the Japanese Coenzyme Q10 Association. We hope that you will enjoy the high standard of this meeting, together with all the cultural delights that Sydney has to offer. Please check this web site regularly for updated information.
Prof. Roland Stocker

Key dates:
Start: December 1, Conference start at 12.00 pm
Finish: December 4, Conference finish at 3.00 pm
Abstract submission deadline 14th September 2009
Early-bird registration deadline 9th October 2009

